

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立仲六郷小学校

- 関係法令
- 学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
東京都教育ビジョン
- 大田区教育委員会教育目標
おおた教育ビジョン

学校教育目標

日々新しく伸びゆく仲六の子

- なかよくする子
- かかんがえる子
- こころゆたかな子
- はたらく子

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

各教科の指導の重点

主体的に学ぶ児童を育成するため、導入の工夫と「振り返り」の学習を重視し、見通しをもって学習することや基礎学力の定着、学んだことを次時に生かす力を身に付けさせる。

生活指導の重点

児童理解を深め、一人一人の児童のよさを生かした指導を行う。教員の共通理解のもと、基本的な生活習慣や学習規律の定着を図る。小中一貫教育志茂田中学校区「生活のきまり～みらいのわたし～」の指導を徹底する。

進路指導の重点

キャリア教育を重視し、将来を展望し、国際社会に協力できる日本人の育成を目指し、生涯を通して児童が自らの目的をもち、主体的に生活できる基礎を培っていく。

学校経営方針（学力向上にむけて）

- ・自分の考えを表現できる児童を育成する
- ・「言葉の理解、言葉の活用、言葉による表現」を全ての学習活動の基盤に据える。
- ・育てたい資質・能力を明確にして授業を実践し学習のゴールイメージを児童にもたせることで、基礎的な学習内容の確実な定着を図り、学んだことを生かせる機会を増やす。

本校における「確かな学力」とは

「確かな学力」とは、自分で課題を見付け主体的に考え、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力と捉える。

＜授業改善の基盤に据えること＞

- ◆「言語活動」を充実させ、主体的・対話的な深い学びの場を設ける。
- ◆導入や「振り返り」の学習を充実させ学習に見通しをもたせたり基礎的な知識・技能を身に付け、次につながる指導を行ったりする。
- ◆学んだことを生かして活動するアウトプットの機会を設ける。
- ◆ICTを有効活用する。

道徳教育の指導の重点

自他の人格を尊重し、互いに信頼し協力・尊敬・感謝する心を培う。考え・議論する道徳科の授業実践をとおして、自己の生き方についての考えを深め道徳実践力を育てる。

特別活動の指導の重点

互いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。**人間関係形成** キャリパスポートを活用し目標に向けてがんばる力を育てる。**自己実現** よりよい集団や社会をつくろうとする力を育てる。**社会参画**

総合的な学習の時間の指導の重点

自ら課題を見付け、探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、各教科で身に付けた力を活用し、問題の解決を図ることができるようにする。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・各教科で主体的・対話的な深い学びの場を設け自分の考えを上げたり、他者の考えを取り入れたりするなど多面的・多角的に考えることができるようにする。 ・各教科ICTを効果的に活用していく。 ・本校児童が苦手とする長文、問題文、地図、表やグラフ等を読み取る学習活動は、資料を効果的に活用しながら児童の意欲を高め、習熟を図る。 ・主体的に問題解決的な学習を行うために、授業の導入を工夫し、課題をつかめるようにする。 ・ステップ学習、東京ベシックドリル、診断テストを全学年で実施し、基礎学力の定着を図る。 ・実験では、理科支援員を有効活用し、少人数のグループ編成で主体的に実験に取り組み、実験器具の正しい操作方法を身に付け、活用できるようにする。また、「振り返り」の時間を確保し、実験の結果をおさえる。	・朝読書を週1回、ボランティアによる読み聞かせを月1回、読書週間を年間複数回行う。読書学習司書を活用し、読書の日常化を図る。（休み時間の貸し出し、ブックトーク、学習活動の補助） ・月2回のPCサポートを有効活用し、PCの技能を高める。 ・学習指導補助員と連携して平日、土曜補習教室を行い、個に応じた指導の充実を図る。 ・学習したことを生かして、発表したり実践したりする場を設定し表現力の向上を図る。 ・学校公開を年2回実施し、体験的な学習や交流活動等を位置付ける。 ・振替なしの土曜授業を月1回行うとともに、授業日変更や行事削減に伴って生じた時間の効率的な運用によって授業時数を確保する。 ・休み時間を利用して「仲六道場」の取り組みを実施し体力向上や運動の日常化を図る。	・「自分の考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成」をテーマに効果的な資料の活用や課題設定の工夫を通して学力向上を目指す。 ・自己申告の授業観察では授業改善推進プランに基づいた授業を公開し、授業改善のPDCAサイクルを確立したり、教員でペアを組んで授業を観察しあったりして、授業力の向上を図る。 ・計画的に、生活指導研修会を行い、SCから児童への支援や児童理解の方法を学び、日常の学習活動に生かしていく。 ・OJT推進計画に従い授業の基礎・基本や実験器具や教具の使い方、デジタル教科書等、ICTの活用、模擬授業等の校内における研修の充実を図る。 ・志茂田中学校区の連携を深め、小・中9年間を見通した授業改善推進プランを推進する。年間2回、検証授業を実施する。	・毎時間の授業の終末や単元の終わりには「振り返り」の時間を設け、学習内容の定着を図ると共に、自己評価や相互評価を行い、成果や新たな課題等を確認する。 ・児童の作品などを計画的に掲示し、互いのよさを見付け、評価し合う機会を設ける。 ・教科や単元の特性に合わせて評価を行うことで、児童のつまずきを把握して次時の学習に生かせるようにする。 ・通知表では、学校と家庭の双方向性をもたせ、互いに子どもの育ちを共有する。 ・大田区学習効果測定の結果やチェックシートをもとに、学習カルテを作成し、授業改善や個に応じた指導に努める。 ・自己評価及び学校関係者評価では、取り組みの指標を示し評価を行う。 ・学校公開後には、「保護者アンケート」を実施し、結果を生かして授業改善を行う。	・学校のホームページを活用して教育活動への理解と啓発を図る。 ・個人面談で学習カルテをもとに児童の成果や課題について話し合う。 ・「学校だより」や保護者会、面談などをとおして、家庭学習と学力との関係を保護者に繰り返し伝え、「家庭学習のすすめ」を参考に家庭学習が習慣化するように促す。 ・学校公開で本校の教育活動への理解を深めることができるようにする。 ・地域と連携した活動を積極的に実施する。 ・道徳授業地区公開講座では、保護者や地域の方々と学校が意見を交換する場を設ける。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、学習習慣を身に付けるために必要な素地をつくる。 ・学校支援地域本部と連携し、保護者・地域の教育力を生かす。 ・放課後ひろばと連携し、家庭で学習できない環境の児童への対応を行う。